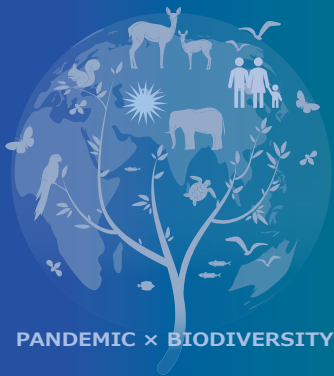


特別企画

次のパンデミックを防ぐために 我々は何ができるのか？

ウイルス学・生態学・公衆衛生学の視点から考える



COVID-19 のパンデミックは多くの人の命を奪っただけでなく、社会全体に深刻な影響をもたらした。地球上の人口が 80 億人を超え、環境破壊や地球温暖化が加速するなど、人的要因により地球の生態系は限界に達し、パンデミックが起こるリスクはかつてないほどに高まっている。本来は、世界が協力してそのようなリスクを低減する努力をするべきである。しかし、世界は COVID-19 から十分な教訓を学んではおらず、COVID-19 以前の世界に急速に戻ろうとしており、世界のパンデミックに対する脆弱性はむしろ高まっている。パンデミックのリスクを低減するためには単一のアプローチでは不十分であり、「総合知」を必要としている。今回の特別企画では、パンデミックリスクを「ウイルス学」、「生態学」、「公衆衛生学」といった視点から徹底的に議論する。医学や生命科学だけでなく、さまざまな専門分野の若手研究者や学生とともに、人類にとって最大の脅威のひとつであるパンデミックの問題の本質を議論する場としたい。

**五箇公一・国立環境研究所
生物多様性領域・室長**

保全生態学者・ダニ学者。ヒアリをはじめとする外来種対策や農業リスク管理など生態リスク対策研究に従事。生態学の見地からパンデミックの問題に取り組んでいる生物多様性のエキスパート。オールブラックの服にサングラスというハードな風貌がトレードマーク。メディア出演多数。趣味として CG で生き物の絵を見事に描く。

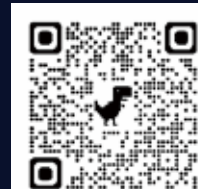
11.26 (TUE)

17:00-20:00

- 開催形式：対面とオンライン (Zoom) のハイブリッド
- 対面会場：青葉山コモンズ 1階 ラーニングコモンズ (農学部)
東北大学青葉山新キャンパス (MAP J41)
<https://www.library.tohoku.ac.jp/agr/facility.html>
- 対象：東北大学の教職員・学生 / 東北大学外の研究者・学生
- 使用言語：日本語
- 登録締切：2024年11月25日 (月) 15:00



プログラム・講演要旨



参加登録



**佐藤 佳・東京大学
医科学研究所・教授**

東北大学農学部出身。COVID-19 の原因ウイルスの変異株やその亜系統の解析などで世界トップクラスの研究成果を挙げている気鋭のウイルス学者。【「新型コロナウイルス学者」の平凡な日常】(週刊プレイボーイ) でコラムを連載し社会に発信するなど、その活躍はアカデミアにとどまらない。



**押谷 仁・東北大学
医学系研究科・教授**

WHO 西太平洋地域事務局・感染症地域アドバイザーとして 2003 年の SARS の世界的流行で陣頭指揮をとり、封じ込めに成功。COVID-19 パンデミックでは政府の分科会などの委員として対応にあたる。日本の対応について New York Times や Nature に寄稿するなど世界的にも注目された、ウイルス学・疫学のエキスパート。山登りをこよなく愛する山男。



瀬名秀明・作家 (モデレーター)

東北大学大学院薬学研究科在学中に『パラサイト・イヴ』でデビュー。『インフルエンザ 21 世紀』をはじめ著書多数。『NHK 100 分 de 名著『アーサー・C・クラークスペシャル』の「空想」ではない』で第 52 回星雲賞ノンフィクション部門受賞。(撮影 = 佐々木隆二)

